2年度の事

監査報告を 収支決算、 事業報告と 21年度の 議では20

#### 私と文学・01

『乳房』は、私たちに、生を問いかけてう作業を忘れてしまっていたことを……。そして、はた、と気が付いた。書く、とい 書くための素養としては本の乱読しかな という感情を堪能させてくれる。 にとって、それは伊集院静の『乳房』だっ い、という思い込みに陥ってしまった。 に出会った人は幸福だろう。 《こんな小説を書きたい》 闘病で死と向き合う妻との交流を描 押しつけがましさのない、切なさ、 となると話は違ってくる。 小説を 私

涙だろうか? 無為に過ごす、虚しさを何が流れてくるのだろうか。血だろうか、 生の断面を切り取られれば、そこからは 教えてくれる小説は、人生の師そのもの 鋭い剣を喉元に突き付けられ、

> を く、途方にくれる。しかたがない。『乳房』 書くだけだ。 だ。感謝しかない。さてと、後は小説を 一度読んでみるとしよう。 しかし書く べきテ ーマがな

後の主人公たちの人生を暗示させ、私たとでもいうべき、空間の広がりが、そのこそ小説の醍醐味ではないか。余白の美は、そうは思わない。最後の一行の余韻 ちを想像の世界に誘う。 小説は最初の一行が大切だという。私

わって 『乳房』の締めくくりは、この文章で終 いる。

「私は妻の髪に頬を寄せた。 ムチェッ クのリボン から、 木綿の匂

「捨てない

生き方」を見たとき、

て本は火災から免れたのだという。 開先として宮城県加美郡の蔵へ。こうし というのも感動もの。戦争当時の本の疎 ど。東洋文庫初めての巡回展を宮城から

 $\hat{}$ 

▽今年90歳の五木寛之の新作タイ

得た思いがした。「断捨離」ブー

-ムに乗れ 我が意を

ないでいたこともあるが、新型コロナ禍

# 「私と文学」の原稿募集

稿を募集します。文学館友の会事務局約600字で会員のみなさまの原 お送りください

古氏が「ハウマッチ?」を連発、画家を苦古利彦のときは、絵の値段を聞こうと瀬

## $\widehat{\mathbb{K}}$

ンルは問いません。イニシャルでの投稿や、映画・演劇などを見た感想などジャをお寄せください。おススメの文芸作品 字程度で、会員のみなさまの声

☆専門分野の違う「達人」が互いを訪ね

画家の横尾忠則とマラソンの瀬

しばし遠き良き日のその国に想いを馳せ 器、紅型衣装など戦禍を逃れた品々に、

 $\widehat{\mathbb{N}}$ 

首里城正殿の鐘や中国元時代の陶磁

「文友

の部屋」の原稿募集

文化を作

中国、東南アジアと交易をし独

50年間、琉球王国は日本や

文友の部屋

展」を見て来た

29年

の誕生

わず、東京国立博物館で「琉球に乗った。直行直帰で誰にも会

笑させた。

タレント 「りゅうちぇる」と

★2年半ぶりに上野まで新幹線

79年の沖縄県設置まで

0

クリエーター同士の謙虚さを感じた。呼びかけ、活動や創作の秘訣を語りあう手に終始「りゅうちぇるさん」と作家が作家の平野啓一郎のときは、恐縮する相

(鈴木正博) 赤 ギ

チに座って、中心を見たり外を眺めたりがはっきりしない程度の明るさだ。ベン てみる。 いコントラストだ。でも、今日は境界線でいるのではないかと思わせるほど、濃 して、静かな時間を楽しむ。 りと描かれる。それは、影には何か潜ん は、床に光と影のコントラストがくっき 天井から光が差し込んでいる。 降りて1階のエントランスホー 「ひざしの杜」は開店準備中だ。 今日のお供は原田マハとヤマザキマ 円形の床に、吹き抜けのガラス 晴れた日 ルへ降り 階段を

頃では、モノは捨てずに使い切るしかなにウクライナ侵攻、軒並み値上げのこの

いではないか。もとよりゴミ屋敷はご免

ろす。

どこで、誰と、何で見るのかが変

ではあるが。

マテレビドラマシリ

ーズ2つが幕を下

近

化したからだそうだ。確かに

いま私たち

スの窓から、そして「ひざしの杜」の方か長いガラス天井から、奥のフリースペーくり上っていく。光が少し変化する。細 ような感じだ。 い安心な空間なら、二階は広い原っぱのらの光が混ざり合う。1階が閉じた温か 二人の話を聞き始めようか。階段をゆっり、元気で話し好きの二人だ。そろそろ

いがけず、テレビドラマが道具と人間役割や機能を考えなければならない。

思

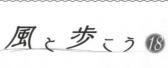
テレビドラマが道具と人間の

でいる途中なのだろう。使い方を習得れ は新しい道具を手に入れ、使い方を学

関係を考えさせてくれた。

(和)

のにぎやかなおしゃべりに耳を傾けながバックから二人のお供を解放する。二人 時々外を見る。





ハムラビ法典、東方見聞録、解体新書な

行った。教科書に出て

な資料、

洋文庫名品の煌めき」を観に多賀城

▽東北歴博の特別展「知の大冒険

Photo by Ryuji Sasaki

69号をお届け

仙台文学館友の会会報「文学の杜」第

キンシバイがよく見える席に座って、

本世紀以上も前に、国語の教科書で にない感動が、文学への興味を引き出してくれたと思っている。 「ない感動が、文学への興味を引き出してくれたと思っている。 「なって持ち去ろうとしたとき、人の気 いで思わずポケットにいれてしまい、 「なってきながえりながら、ほとんど結晶化されていた。強い思い入れには自分の体験が関わっている。 を黙って持ちよみがえりながら、ほとんど結晶化されていた。強い思い入れには自分の体験が関わっている。 を黙って持ち帰り、その後こっそり返しておいたことがあったのだ。そのときの罪悪感と「少年」の心の描写が重感と「少年」の心の描写が重感と「少年」の心の描写が重感と「少年」の心の描写が重なって、胸が締めつけられる

文友一

このとき 手にした本の表題「もう一度読みたい」と小見出しつきの「教科書の泣ける名作 再び」をみたときは、違和感を覚えた。確かに感動的でが、は、違和感を覚えた。確かに感動的でなっても影響力を持ち続けることもある作品に対して、この言葉使いは不適切ではないかと思ったからだ。とはいえ、私の中の小説の価値は少しも揺るぎはしないが。 (近)

# 2022年度スター 友の会会報

第69号

令和4年7月30日発行

仙台文学館友の会 (仙台文学館内)

仙台市青葉区北根2丁目7の1 電話 022(271)3020 仙台文学館のホームページ https://www.sendai-lit.jp/

3年ぶりの総会開 案通り出席者全 案についても原 て可決された。 員の拍手をもっ

友の会講座は勘案中。 会(偶数月)●会報は年3回発行 して6月に「写真の撮り方講座」●読書 画については●文学散歩に代わるものと 00万人の年賀状展(共催)●2月 このうち事業計 0

会はゴー

ルデンウイ

クのさなか、

5月

仙台文学館友の会の2022年度総

18名だった。 続いて役員とサポータ 総会は滞りなく閉会した。参加者は の紹介があ

会長の渡辺祥子

さんの挨拶で始まった。

事務的な部

儀なくされていたので3年ぶりである。

と新型コロナウイルスの影響で中止を余

4日に文学館で開かれた。昨年、

一昨年

▽会長 のぶ▽事務局 子、加藤裕子、坂田久子、 沼和子▽サポ なお、役員、サポ 一文字ひろみ▽監事 渡辺祥子▽副会長 伊藤美菜子 大菜で 、子、佐藤満子、佐野池田ミチ、尾形光 は次の方々。 寺嶋信▽幹

護長に就い

藤美菜子さ 事務局の伊 分は友の会

んが司会、

て議事を進 めた。

議案の討

0冊の著書にも驚かされた。 旅した気分、見どころ満載だった。30入れた珍しい品々や壮大な写真に見入り 感想などを言い合い、みんなで見て回っ 聞いた。その後で質問などをしながら、旅する文学館」の展示解説を学芸員から 総会が終わってから特別展「椎名誠 旅をテーマにした作品群、 「2度見た 旅で手に

会長 渡辺 文学と共に、皆さまと共に

いつも友の会の活動にお心を寄せて下 ありがとうございます

と願っております 方と交流できる機会を増やしていければ 度。少しずつではありますが、直接皆様 3年ぶりに総会開催が実現した今年

禍の過ごし方や文学との関わり方を拝見 員の皆さんの在り方に大きな力を頂いて た文学との静かな関わりを保っている会 文学の力を再確認するとともに、そうし 取り、本来の、私、を取り戻させてくれる 会報に寄せて下さる皆さんからのコロナ 有難さをかみしめる時間になりました。 学の大切さや、文学を中心に据えて皆さ では日常的に使う事のなかった、禍、と んと繋がることができる友の会の存在の 0年からここまで、改めて身近にある文 いう言葉が生活の中に入ってきた202 しながら、息苦しい現実から少し距離を 振り返ると、コロナ禍とい それま

せていければと考えております。引き続 きた大切なものを友の会活動にも反映さ 今年度は、このコロナ禍の中で見えて

口の航海である。体力と精神力の強さにて帰国した。83歳、69日間、8500キ

での単独、無寄港の太平洋横断を果たし

つことで充実した人生を送れる」と語っ

▽出発前のインタビューで「目標を持

ていた海洋冒険家堀江謙一氏が、ヨッ

驚かされる。同世代の熱い魂に、

密かに

ワインで乾杯する。

所であった。 気付く。

写真の撮り方教室 ば を 撮

がある。

**な力である。そう** 真がある。不思議 匂い、味、 気配までを持つ写 のに、 固定され、切り取 的な瞬間であれ、 0 られた場面である なにげない日常 ひとこまで まさ きらめき、 声、 しく決定 音楽、 音、手

2

友の会イベント

はどうすればいいのだろう。した「こころに響く写真」を撮るに

カメラマンの佐々木隆二さんを講師に迎 真の撮り方教室」である。会員でも ていねいに準備された資料に基づき、 友の会行事今年度第1回は、「写 ある

写真を撮ることの基本的知識を学ぶ。 ○一瞬を切り取る、本質を切り取る。 チャンスは撮る人の気持の表

○どの位置で枠の中に取り込むかを決

けてくることがあいくつものことば させてくれること 出をよみがえらせ る。懐かしい思い る。その先を想像 てくれることがあ 枚の写真が

める「フレー ○レイアウトの必要性。 ○ブレ、ボケ、はみ出しなどの効果。

れない。 たものは永遠に動かない。 ○被写体とわたしを固定する。 同じものは撮 固定し

のに変換したものである。 ○1枚の写真を言葉で説明するのは難 ○写真は、見えないことばを見えるも

しい。その情報量はことばを超えている。 ○写真には発想、想像、記憶が映像と る。

イドを使って詳

しく見せてもらっている

参

あった。 次々と連想することばをつなげて思考を 広げる「ウェビング法」というものが この説明の中に、 ひとつのことばから

像が、 を書く時にも通じることではないかと、 連想ゲームのようでもあり、これは文章 どん広がってゆくという方法であった。 べったくなるのかもしれない」と、どんかしのしっぱいをおもいだすと、ひら ば、ひとつの赤いりんごからの発想や想 面白く、興味を引かれた。 とカチカチになるのかもしれない」「む ツヤに、こわいとシワシワに、 かくかもしれない」「ほめられるとツヤ もしれない」「よるはちいさく かもしれない』(ブロンズ新社)によれ 参考にしたヨシタケシンスケ『りんご 「かなしくなるとしろくなるのか くやしい いびきを



か。

かれた。 終了 後、 参加者からはこんな感想が聞

続きをと思う。

アドバイスが貰えるのだったろう。

ころ弾むことでもある。 るのか、想像するのは難しく

いったいどんな

あり、

馬がいる… (髙木護の詩)」

これらの言葉にどんな写真が付けら

には見えて自分には見えない幸福の中で

(吉野弘の詩)・木漏れ日の下には縞

との山に向かいて…

(啄木の歌)・他人

本はともだち、命の時間・和み・ふるさ

「青葉山散歩・平和・芝生・偶然・雲・

きな言葉」には次のようなものがあった。 加者が各自選んできた「写真にしたい好 写真を撮影することはできなかったが、 うちに予定の時間になったため、実際に

- ・実技があれば更によかったのではな・講義内容がよかった。 ・資料が充実して いて、良く分かった。
- か。
- 完成した作品を、会報に載せるなど 続きがあればぜひ参加したい。 発表の場があっても良いのではない
- だと感じた。 写真を撮るのと文章を書くのは同じ

ひとこと「写真は語るものではなく、 講師に感想を尋ねると、しば、 し考えて、 撮

6月22日開催 11名参加(佐)

第52回読書会

### 目覚めること、 飛翔 すること

チェー ホフ いなずけ

それではいけないと教えてくれる。 • 人生「たら、れば」と考えがちだが

る

0

変化が表れ

生き方や価値観

ホフが、死の前年に書いた短編である。

4年に44歳で亡く

なったチェー

貴族シューミン家の娘ナージャは23

神父の息子と婚約中であるが、結婚

- 切り みごとに描かれる。心理描写がすごい → ◆婚約者への愛情が消えて行く過程が 未来を開いて行く ジャは列車に乗って過去を振り
- いか。 ◆この物語のキーマンはサー ・シャでは

な

若 4 月 13 日 とする強さが、爽やかで心地よい。い女性が、なにもかも飛び越えて行こ ◆学ぶという新しい生き方を見つけた 6名出席。 佐

がてナー

のだろうか。

第53回読書会

静か

な気付

きの

訪

のは…。彼女はどんな女性になって行

る遠い親戚の青年サーシャであった。や を口にするのは、毎夏この家にやって来

ジャの心に沸き上がって来たも

らしている」と富裕な貴族生活への疑問 「みんな毎日何もしないでぶらぶらと暮

式を控えてなぜかう

れしくない

る ・文章が柔

スプレゼント 石川の心の中のドラマが語っている」な出した。・人が何かに気付くことを、 どの感想が出された。説明を省くことで どものことを思らか。・親は子 もある。 らか。 の子育てを思い い続けるもので 自分

読者自身に考えることを促す短編であ 6月8日 8名出席 (佐)

る。

だ。下着を箱に詰めながらそれがクリス

と言い残して妻はこの春ホスピスで死ん

20日頃、

あの子に下

着を送って」

沢木耕太郎「クリスマ

マスプレゼントではないかと思った時、

次回読書会は10月12日水14時 リシア・ イスミス「ヒロ イン

そして自分は、息子が小さかった時に、

う一生分のプレゼントを貰ったのだと

息子への荷物の宛先は宮城刑務

かも書かないことで余韻が残

の息子の声が、思い出と共に立ち上がる。

サンタの絵本を何度も読まされた時

る。

石川の胸に幼い息子との日々がよみがえ

※友の会会員は自由に参加できます (『11の物語』ハヤカワ文庫所収) 込みは友の会事務局まで。 申

> 第 25 回ことば の祭典

言葉によって、

集した。 開催方法を変更し、事前応募で作品を募 止のため、中止を余儀なくされ、昨年は 裏方を手伝うなど参加してきた。しかし、 会を行ってきた。友の会としても協力と して名を連ね、サポ 「ことばの祭典」は仙台文学館開館前年 昨年、新型コロナウイルス感染拡大防 し、毎年、短歌・俳句・川柳の合同吟行 998年) にプレ企画としてスタ ター会員が、当日

館長賞。 選者は、短歌の部が三枝浩樹氏、梶原さ 賞、選者の特選・秀逸・佳作。 門の選考にあたった。賞はことばの祭典 ツオ氏、川柳の部が新家完司氏、雫石隆 い子氏、俳句の部が柿本多映氏、高野ム せられた。題は「野」または「触れる」。 都道府県から、832名の参加をいただ 前応募で作品を募集したところ、全国45 628作品、川柳の部563作品が寄 氏、館長賞として佐伯一麦館長も三部 た。短歌の部548作品、俳句の部 第25回を迎えた今年 P 昨年に続き事 佐伯一 麦

紹介された。 で、文学館1階エントランスロビーでパ ル展示され、文学館ホー 入賞作品は6月24日から7月27日ま ムページでも

《ことばの祭典賞》

◇短歌の部

鳴るまで 六の唇触れるリコ 花月大師 (東京都板橋区) 音楽室に海が

かな 何をするわけで 山本啓(奈良県葛城市) もなくて春野

◇俳句の部

※該当作なし ◇川柳の部

《佐伯一麦館長賞》

◇短歌の部

がつけて行く 氷点下広い野原は雪化粧キリ リ線を

米倉瞳(東京都大田区·高校三年)

◇俳句の部 身の若葉に触れるこども

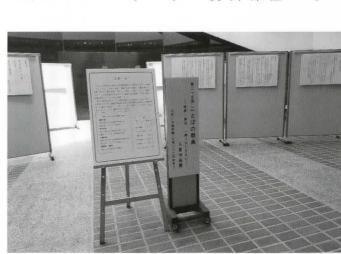
独り

畠山耕賑(宮城県大崎市·高校二年)

0

頬杖をついて野菜をつつく父 ◇川柳の部

佐藤安純(宮城県大崎市·高校三年)



講師がこれまでに撮影した写真をスラ